

知を活かす科学・技術政策にむけて

榎木英介

NPO法人サイエンス・コミュニケーション理事
サイエンス・サポート・アソシエーション代表

若手研究者のキャリア対策の実情

- 若手の生の声が伝わっていない
 - 成功した研究者という「フィルター」を通して
 - 研究ではない職業=敗者
 - 先入観(使えない)
 - 自己責任



失業対策的施策



プライド
ずたずた



研究に固執
40歳でもポスドク...

国力低下



失望感

最悪の悪循環



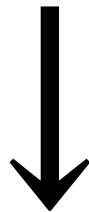
研究力低下

理科離れ



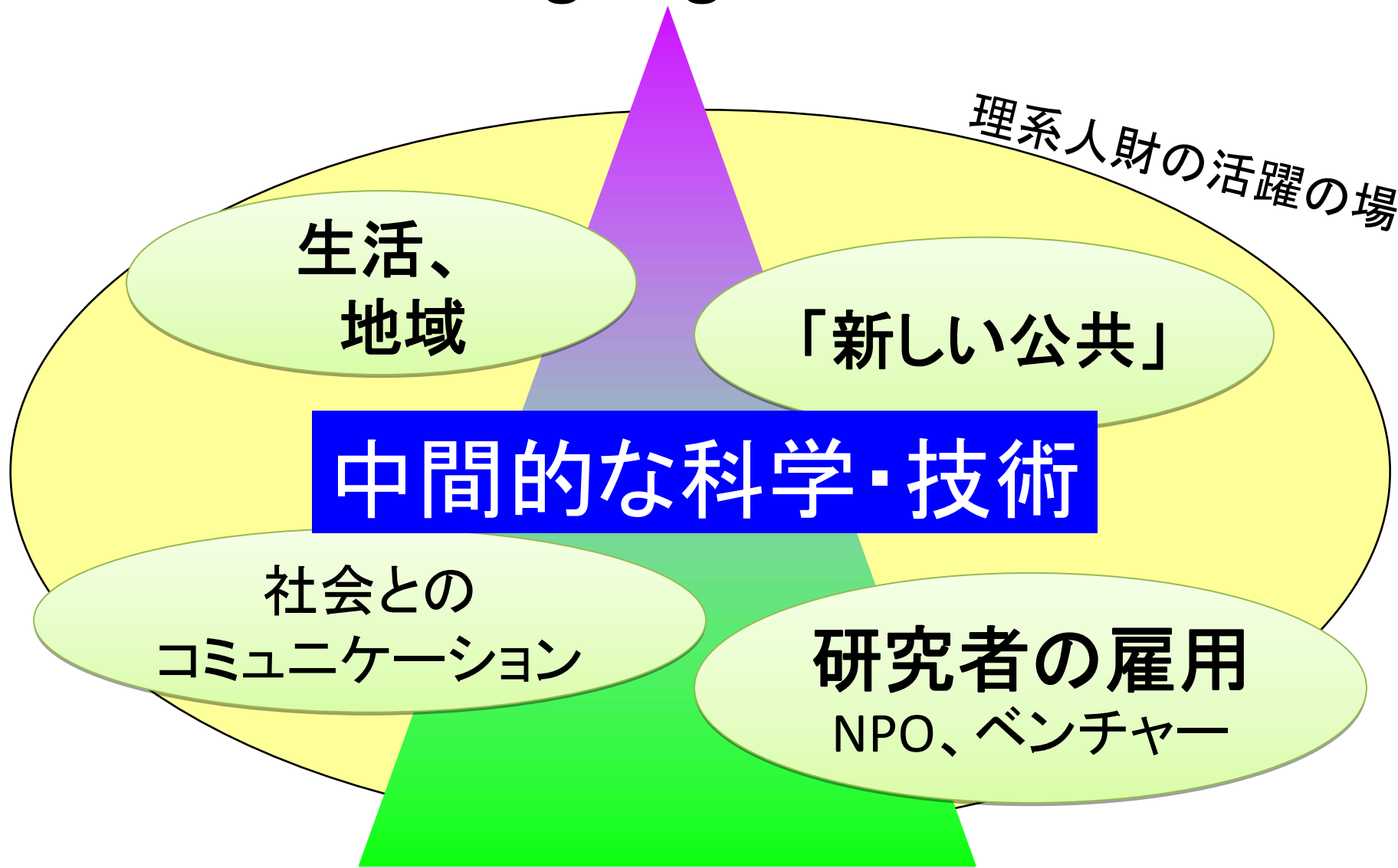
発想の転換を！

博士、ポスドク



公的な財産（人財）

“Cutting Edge” な研究 →現在の政策の焦点

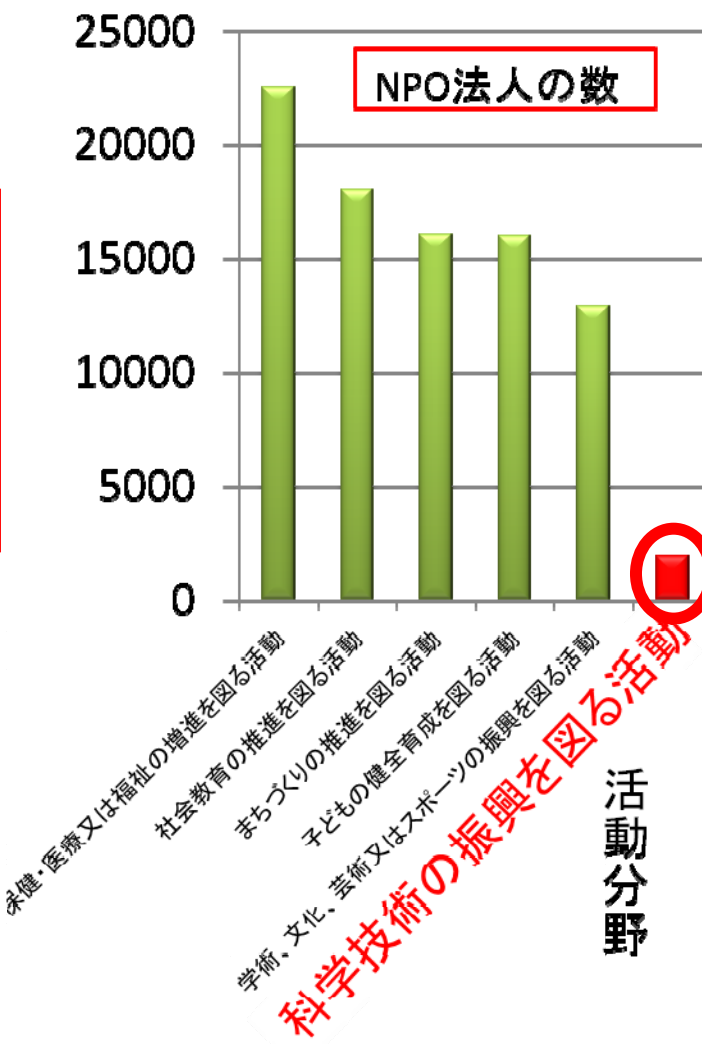


事実としてほぼ確立した科学 →理科教育

科学技術関連NPO

政策と研究現場の交流を担う
 科学・技術と社会の交流を担う
 科学・技術人財の活躍の場

	アメリカ	欧州	日本
科学コミュニテイ	National Academies	各国科学アカデミー	日本学術会議
分野横断的自発的研究者NPO(市民も参加可)	AAAS (全米科学振興協会)	Euroscience British Science Association	
市民との交流(年次大会)	2月開催	あり	11月サイエンスアゴラ(JST主催)
中小規模のNPO	憂慮する科学者同盟 National postdoc association 他多数	CaSE Observa 他多数	日本科学者会議 サイエンスカフェ <u>少ない</u>



活躍のスイッチを押す政策を

情報

- 最新論文が自由に読める
- 機関リポジトリ、オープンアクセス

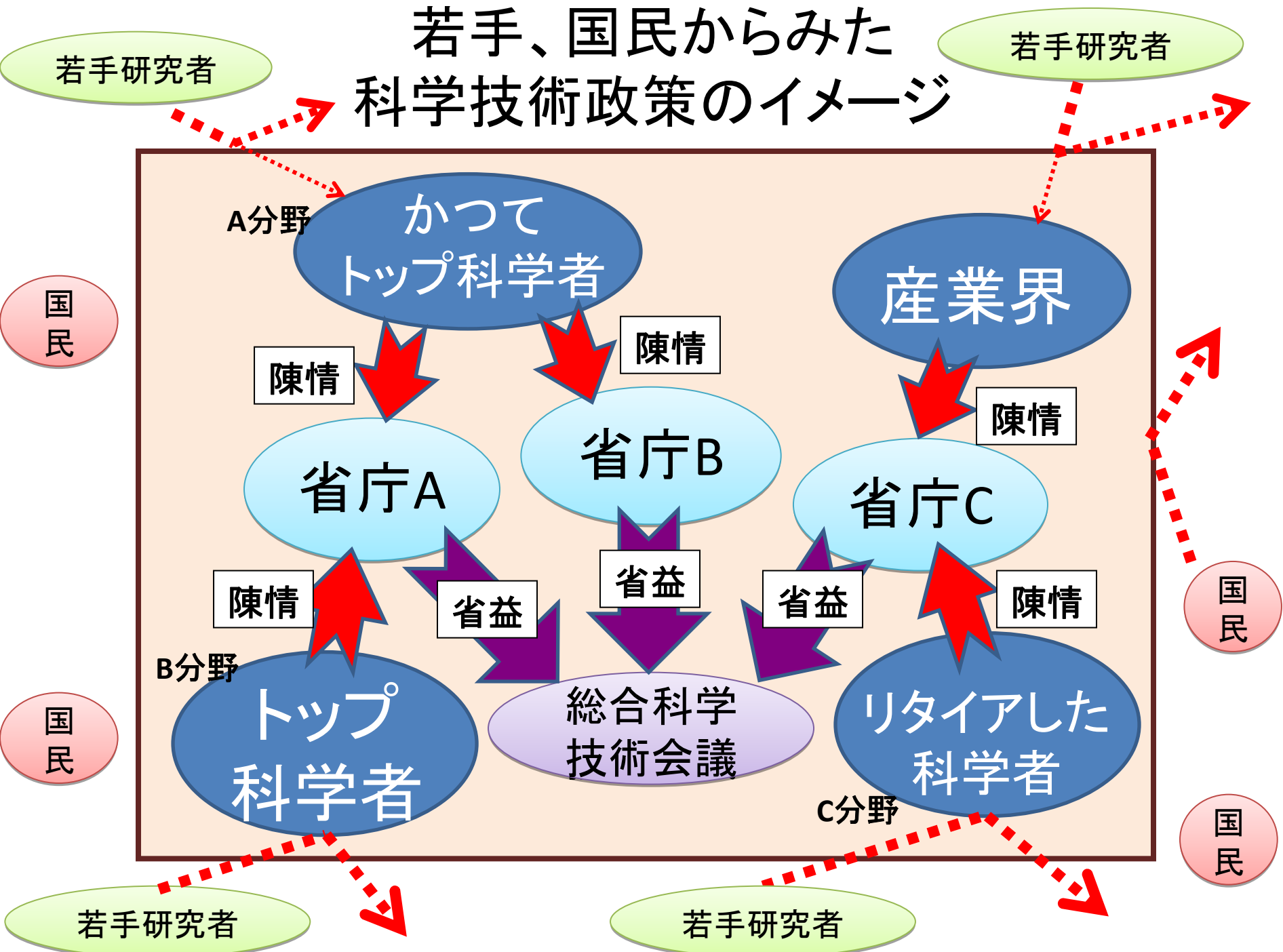
場所

- 研究できる場、拠点
- 大学、図書館、科学館
- 貸し研究室など

人財

- 大学と社会を行き来
- 年齢、性別等によらない評価
- 専従規定の緩和

若手、国民からみた 科学技術政策のイメージ



科学技術政策に望むこと

- **フラット**で**オープン**に
 - 関係者が等しく意見が言える
 - Public engagement(市民参加)
 - 政策決定過程の可視化
 - 研究現場と政策の人財交流

未来(公益)のための政策を！